

みんな育てる福祉のこころ



1人は万人のために 万人は1人のために



第580号

発行日 毎月20日
定価一部 15円※会員の購読料は
会費の中に含む(一社)佐賀県労働者福祉協議会 佐賀市神野東四丁目7番3号 TEL 0952 (32) 1243
ホームページアドレス: <http://saga.rofuku.net/>発行人 青柳 直
編集人 江頭 一哉

賀正

2019年 あけましておめでとうございます。



旧年中は、労福協・各事業体の諸活動にご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本年も労働者福祉運動と自主福祉事業の基盤強化及び運動の継承を図るため鋭意努力してまいります。また、労福協勤労者旅行会についてもご愛顧いただきますようお願いいたします。

皆さんと共に、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向かって前進していきましょう。

有田地区 会長 草場 薫	藤津・鹿島地区 会長 田中 洋一	杵島・武雄地区 会長 平山 憲	伊万里地区 会長 塚本 典義	唐津・東松浦地区 会長 渡部 浩治	小城・多久地区 会長 稲富 修	佐賀地区 会長 永石 亀	神埼地区 会長 山崎 裕介	鳥栖・三養基地区 会長 大森 充	監事 待鳥 洋文	戸川 武幸	野中 豊明	市川 智博	一ノ瀬喜一郎	土田 誠也	西村 洋介	田中 啓善	理事 小副川 高朗	常務理事 高祖 和彦	専務理事 江頭 一哉	森田 末喜	宮島 康博	副理事長 原口 郁哉	理事長 青柳 直
-----------------	---------------------	--------------------	-------------------	----------------------	--------------------	-----------------	------------------	---------------------	-------------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------------	---------------	---------------	-------	-------	---------------	-------------

2019年 年頭のごあいさつ



佐賀県労働者福祉協議会

理事長 青柳 直

日本労働組合総連合会・佐賀県連合会

会長 青柳 直

新年明けましておめでとうございます。会員・組合員ならびにご家族の皆様におかれては、素晴らしい年を迎えられたことと思います。

労福協は、昨年創立50周年という節目の年を迎え記念式典をはじめ記念事業を取り組みました。県下の各労働組合および各福祉事業体、そして県をはじめ関係者の皆様方にはご理解とご支援を賜り新たな10年に向けて歩み始めました。

しかし、この50年の歳月の中で、社会・経済・そして勤労者の生活は様変わりしました。高度経済成長期を経て、その後バブル経済に沸き、そしてバブルが崩壊し、1999年には失業者が300万人を超え、自殺者数も3万人を超え、さらに企業がリストラをすれば株価が上がるという時代を経験してきました。

その後も、2008年9月にリーマンショックが起き世界同時不況や急激な円高に見舞われ、生産拠点の海外移転に伴う産業の空洞化、さらに規制緩和の名のもとに各種の法改正が実施され雇用労働法制も改悪されてきました。

また、今日の日本社会は本格的な超少子高齢化社会を迎え、格差と貧困が拡大し続けており非正規

労働者が全雇用労働者の約4割に、さらに産業構造や雇用構造の変化、そして生涯未婚率の増加、出生率の低下などにより人口構造の変化という歴史的な岐路にたっており、時代も早いスピードで大きく変化しています。

そうした中、昨年は「働き方改革関連法」が可決・成立し、今年4月1日から順次施行となり、これまで青天井だった時間外に上限規制が罰則付きで導入されました。

一方で、実効性が伴わなければ意味がありません。くわえて、労働力不足が全国的に深刻化しており佐賀県においても人材確保は喫緊の課題となっています。

さらに、この先年金や医療・介護といった社会保障制度の維持などに問題を抱え、日本社会の持続的な維持・発展に赤信号が点滅しはじめています。そうした厳しい状況下にありますが、私たちはこれからの若い世代の将来のためにも先を見据え運動を前に前に押し進めていかなければなりません。

そして、今年は平成から新しい元号へと大きな時代の転換点に立っており、今社会に必要なのは人と人とが助けあう「共助」の精神だと思っています。

労福協として、連合をはじめ関係団体が手を携えて社会を変え新しい社会をつくっていかねばなりません。さらに、経済的効率の追求だけでなく、社会性や人との絆、共同の仕組みが組み込まれた社会が求められています。

今年も、労福協各事業の取り組みに対しこれまで同様のご理解とご協力をお願いし、年頭の挨拶と致します。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2019年 年頭のごあいさつ



労働者福祉中央協議会

会長 神津 里季生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、中央労福協の諸活動にご協力をいただき、ありがとうございました。お陰様で、給付型奨学金制度の本格実施や生活困窮者自立支援法の改正などで前進がありました。今年度も引き続き残された課題の達成に向けて、教育費負担の軽減、貧困・格差の解消やセーフティネットの拡充などをめざして取り組んでまいります。引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、中央労福協は本年、結成70周年という節目の年を迎えます。これを機に、組織の枠を超えて「福祉はひとつ」で結集した創生期の初心を思いおこすとともに、労働者福祉運動の今日的な意義を明確にし、次の世代へと運動を継承していかななくては

なりません。このため、10年前に策定した「2020年ビジョン」の検証、見直しの組織討議を行い、次の10年を見据えたビジョンづくりに取り組みます。

私たちは今、混沌とした時代や社会を生きています。貧困や格差はより深刻化し、社会の至るところで分断が生じ、多様性を否定するような動きも強まっています。少子化、貧困の連鎖、環境問題など、社会の持続可能性の危機はさらに高まっています。

一方で、「誰ひとり取り残さない」という国連SDGsの取り組みや、協同組合への期待の高まりなど、新しい価値観への模索も始まり、地域共生社会に向けた地道な実践も広がりつつあります。そして、この間の奨学金制度改善などの社会的運動、ライフサポート事業、生活困窮者自立支援など広げてきた様々なネットワークは、私たちの大きな財産となっています。

これらを次の運動にどうつなげ、超少子・高齢・人口減少や技術革新など社会の変化も見据えつつ、連帯・協同を軸に据えた社会への展望をどう切り拓いていくのか。ぜひとも、様々な場でご議論いただき、それらを集約しながら、確信をもってこれからの運動を進めていけるようなビジョンを、みんなですくりに上げていきましょう！

2019年 年頭のごあいさつ



九州労働金庫佐賀県本部

本部長 原口 郁哉

明けましておめでとうございます。みなさまには、お健やかに平成納めのお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。みなさまのお引き立てをいただき、おかげさまで業績は堅調に推移しております。心よりお礼申し上げますとともに、本年もどうぞ変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

さて、年末の国会では、働き手を外国に求める「入管難民法」の改正などが進められ、与野党の主張が激しく対立していました。少子高齢化の進展により労働力の確保が厳しくなっていることは間違いありませんが、社会に対してどのような影響があるのか懸念される点も多くあるようです。日本人・外国人双方にとってプラスになるような政策であってほしいと思います。

働き手の減少は、老後の生活保障の柱である公的年金

にも影響を与えます。この先、年金受給額は、マクロ経済スライドにより伸びが抑えられ、現役世代の賃金と比べた年金の水準を示す所得代替率は、現在6割程度あるものが20年後には5割程度まで下がるといわれています。このため政府も、自助努力を促す政策を進めようとしており、報道によれば、確定拠出年金の加入年齢の延長、掛け金額の引上げなどの議論が始まっています。政府税調でも「老後の生活に備える自助努力を支援する公平な制度の構築」が検討されています。

公的年金の目減りには文句の一つも言いたいところですが、残念ながらこの流れが変わらないことは明かです。世の中にもこのことが浸透してきているようで、個人型の確定拠出年金「iDeCo」は、2017年の制度改定後飛躍的に加入者が増え、昨年10月末には106万7千人となっています。イソップ寓話のギリギリスにならないためにも、早い時期からの備えが必要な時代になっているのは間違いないようです。

そうは申しても、豊かなセカンドライフを楽しむためには何と言っても健康であることが第一です。みなさまが健康で「猪」のようにバワフルに活動できる亥年でありますようにお祈りいたします。

2019年 年頭のごあいさつ



全労済佐賀推進本部

本部長 宮島 康博

新年明けましておめでとうございます。

日頃から全労済に対するご厚情に感謝するとともに、事業推進においても一方ならぬご協力をいただいております。心からお礼申し上げます。

新年を迎えたわけですが、やはり今年も「災害のない一年であって欲しい」と願っています。

多発する自然災害の被災状況を目の当たりにすれば、願いとは程遠いのが現実であり、被災者の状況には胸が痛むばかりでなく、自らの身に置き換えて想像すれば、とても耐え切れないとの思いが募るばかりであります。

昨年を振り返ると、例年にない大規模と言える地震被害・台風被害が強烈な印象として記憶され、自然の猛威に翻弄された年でありました。

被災された方々の一日も早い生活再建を願うばかりですが、そのためには気の遠くなるような時間と労力が

必要であり、支援の輪の広がりを痛感する次第であります。

さて、昨年の本誌のあいさつにおいて2018年3月に、佐賀県労働者共済生活協同組合（佐賀労済）が創立55周年を迎えることと、それに併せて各種の記念事業を展開することを申し上げていました。

報告としましては、名村造船所での稼働日の工場見学会をはじめとして、やなせたかしさんのタペストリー展「県内5会場」での開催、有田陶芸教室の開催等々におきましては、参加者の皆様には好評で喜んでいただくことができました。

好評であったことを決して無駄にせず、事業推進につなげていくことがご協力いただいた関係団体の皆様への恩返しと思っています。

また、本年3月には鹿島市と伊万里市におきまして『親子ふれあいミュージカル』を開催します。「ピーターパンとウェンディ」を、ぜひ楽しんでください。

2019年は、マイカー共済改定をはじめとする制度改定を行う年でもありますので、より丁寧により分かりやすくをモットーに、今まで以上に身近な全労済と感じていただけるように努める所存であります。

全労済への変わらぬご支援に感謝するとともに、皆様にとって素晴らしい一年になることをご祈念申し上げて新年のあいさつといたします。

2019年 年頭のごあいさつ



佐賀県生活協同組合連合会

会長 福井 健一

新年明けましておめでとうございます。

昨年も大規模な自然災害が発生した年になりました。北陸の記録的な大雪、大阪府北部地震、広範囲で被害が発生した西日本豪雨災害、連続発生した大型台風の被害、そして北海道胆振東部地震と生命を脅かし事業へ多大な影響を与えました。改めて自然災害に対して対策や備えを急ぐ必要があると感じます。

昨年、日本生協連は「コープSDGs行動宣言」を採択し、全国の生活協同組合はSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みをすすめてきました。①持続可能な生産と消費のために商品とくらしのあり方の見直し②地球温暖化対策の推進と再生可能エネルギーの利用・普及③世界から飢餓や貧困をなく子ども達の支援活動④核兵器廃絶と世界平和実現をめざす活動⑤ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくり⑥誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりへの参加⑦健康づくりの取り組みを広げ福祉事業・助け合い活動をすすめることなどを目標に、具体的な活動を通してより多くの皆さんと協同して、助け合い分かち合う協同組合の価値を広げることに取り組んで参ります。今年もよろしくお願い致します。

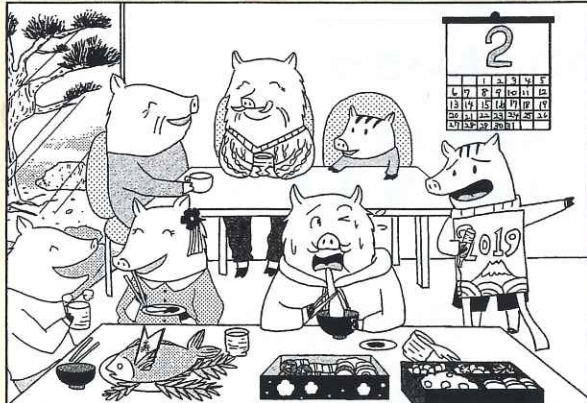
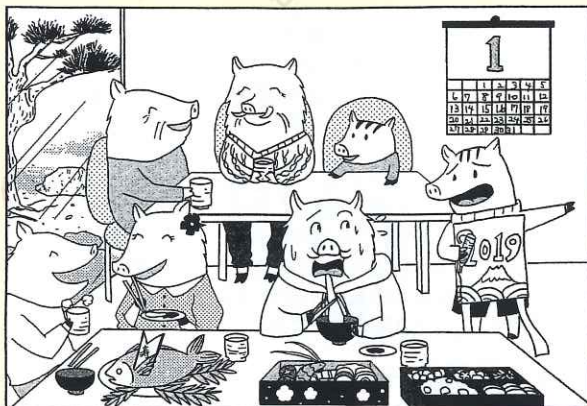
「言いたい劇場」

小菅りや子



下の絵は上の絵をベースに考えて「7つの間違い」があります。それはどこでしょう。次の①～⑧のうち、間違いの全ての番号をご記入ください。

- ①カレンダーの月 ②中央の慌てているイノシシの顔 ③前列左のイノシシの髪飾り
④お節の海老が無くなっている ⑤湯呑が倒れている ⑥奥側のテーブルのイノシシの湯呑みがカップに ⑦松の木の枝 ⑧カレンダーの日付
ただし、印刷上の汚れやかすれ、スクリーントーンの濃淡は間違いとはしません。



こたえがわかった方は官製ハガキに「こたえ」と住所(〒)氏名・年令・自宅の電話番号・勤務先を明記のうえ左記のところへお送りください。お年玉として「宿泊・食事引換券(万円相当)」を一名様、「図書券」を十名様に進呈いたします。(なお、〆切日は、月二十六日とし、正解者多数の場合は抽選のうえ決めさせていただきます。)

▽〒840-0804 佐賀市神野東 四丁目七三 勤労者旅行会

▽当選者発表は 二月号紙上

▽協定旅館
【佐賀】千代田館
【川上】龍登園
【唐津】シーサイドホテル
【嬉野】華翠苑・和楽園
【武雄】武雄センチュリーホテル・春慶屋

旅行会

お年玉クイズ

7つのまちがい探し

「亥(猪)」のつく諺...

猪突猛進

【意味】前後のことを考えずに猛烈な勢いで突き進むこと。周囲への配慮や反省なしにがむしやにやり抜くこと。

猪見て矢を引く

【意味】事が起こってからあわてて対策を講ずること。

猪武者

【意味】「いのししむしや」。「意味」向う見ずに一直線に敵に向かって進む武者を猪の直進する性質からたとえたもの。

山より大きな猪は出ぬ

【意味】「やまよりおおきないのししはでぬ」。「意味」入れ物よりも大きな中身などあり得ないというたとえ。また大げさな言い方もほどほどにしろということ。

遼東の豚

【意味】「りようとうのいのこ」。「意味」世の中で知られているようなことを、自分だけが知っていると思ひ込んで得意がることのとえ。「豚」は猪の古称。また、豚のことという。

豚を抱いて臭気を忘る

【意味】「いのこをだいてくさきをわする」。「意味」自分の欠点や醜さは自分ではなかなか気づかないものというたとえ。家は臭いものだけれども家をかかえている本人にはその臭さがわからないことから。

猪も七代目には豚になる

【意味】「いのししもしちだいめにはいのこになる」。「意味」猪ですら年月を経る豚になることから、長い年月をかければどの様なものでも変化するという事。

馴染みては猪の子も可愛

【意味】「なじみてはいのこもかわい」。「意味」どのようなものでも近くについて慣れ親しむと情が移ってかわいく思えるという事。

2019



【亥】十二支の第十二番目。いのしし。年や日に用いるほか、方角では、北北西。時刻では午後一〇時ごろ、また、その前後二時間の呼び名とする。